

■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

星、せせらぎ、セミ時雨

劉亦玲 + 辻元美穂

会 場： HRDファインアート

(京都市上京区上御霊堅町494-1)

会 期： 2023年 6月10日 (土) ~ 7月29日 (土)

時 間： 木曜日 11:00~15:00

金・土曜日 11:00~19:00

休 廊： 日~水曜日 (事前のアポイントにより観覧可能)

【展覧会概要】

HRD ファインアートでは、6月10日から劉亦玲 (リュウ・イリン) と辻元美穂による二人展「星、せせらぎ、セミ時雨」を開催いたします。

劉亦玲は 1989 年台湾・彰化生まれ。現在は京都市立芸術大学大学院美術研究科在学中。絵画をベースとしながら、不定形な支持体を用いたり、映像や立体作品と組み合わせたインスタレーションとして提示したりと、絵画の枠にとらわれない自由な制作を実践しています。劉の作品に登場するマンガのキャラクターのような生き物たちは、作家自身の分身的な存在であると同時に、彼女を取り巻く様々な「生命」、さらにはその生命たちの織りなす関係性までもが投影された存在でもあります。

辻元美穂は 1994 年大阪生まれ。大阪教育大学大学院教育学研究科修了。油彩の抽象表現を中心とした絵画制作に取り組んでいます。自然や生命の躍動を感じさせる緑やオレンジ、黄色などの明るい色彩と、厚塗りの油絵具の物質性を生かした表現が特徴で、近年は矩形ではない不定形の支持体も取り入れています。そこには、一見調和が取れているようでありながらも、数多くの矛盾や混乱、偶然をほらみ、単純化した整理や理解の届かない世界の「混沌 (カオス)」そのものが表現されているようにも見えます。

本展は、自己と世界の関係性を作品制作を通じて見出そうと挑み続けている 2 人の作家による展覧会となります。出自や国も異なり、制作する作品も対照的でありながら、時代・世代の意識や感覚と真摯に向き合い制作を続ける若手女性作家の表現に是非ご注目ください。

本展タイトルの「星、せせらぎ、セミ時雨」は、偶然にも劉と辻元の共通の愛読書であった池澤夏樹の小説『スティル・ライフ』の冒頭の文章から引用されています。

【アーティストからのメッセージ】

よく廃棄されたモノや身の回りから出たカスを素材として取入れ、生きることの切なさとしさを作品を通して表現している。捨てられたものと拾われたもの、価値のあるものとなないもの、虚構と真実の境界線に触れてみる。

絵を描くことで自分と世界との距離を測り、価値の捉え方を模索しながら、納得できる生き方を探し続けていく。

心に、愛がいっぱいあるから、絵を描きたくなる。

愛しく想うモチーフを何気なく描写する行為は、目と手で世界を愛撫することに近いと感じ、そして粘土も絵の具も、私の体の延長だと気づいた。

止めたかった瞬間、止められないと分かり、燃え滓でも、残香でも、物質に焼き付けたいと思い制作している。初夏、そして盛夏、昼下がりの大雨の中でも、私の愛の跡を見に来てください。

—— 劉亦玲

今年に入ってから、ドローイングを元にした不定形のキャンバスを使って制作をはじめました。星のようにも鳥のようにも見える形。池や石、突然世界に空いた穴のようにも見える形。作品を見た人の生きる世界と繋がって、色々な姿になる。

それは各々の心によりそってくれる詩や、占いと似ているように思います。それでいて物質的で、心だけでなく私たちの身体が生きるこの世界に確かに存在する物。そんな作品を作りたいと思っています。

今回の展覧会のタイトル「星、せせらぎ、セミ時雨」の元になった、池澤夏樹さんの小説『スタイル・ライフ』の冒頭文は、制作に迷った時に私をずっと励ましてくれた文章でした。今回ご一緒する劉さんと初めてお会いした日、彼女にとってもこの小説が特別なものだったと聞き、あまりの偶然にとっても驚きました。

—— 辻元美穂

【展示作品・参考作品】



劉亦玲 《The Way I Love It (Life)》
鉛筆、墨、貝殻／ユポ紙 175.5×192.5cm 2022年



劉亦玲 《春の末》
油彩、タンポポの種、紙粘土、アルミホイル 20.5×35cm 2023年



辻元 美穂 《そらを渡っていく》
油彩、蜜蝋／綿布、ベニヤ板 108×117cm 2023年



辻元 美穂 《Nest of May》
油彩、蜜蝋／綿布、ベニヤ板 42×26.5cm 2023年

【作家略歴】

劉 亦玲 (リュウ・イリン)

Yiling LIU

1989 彰化 (台湾) 生まれ
2011 国立台北芸術大学美術学部絵画専攻修了
2022～ 京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻在学中
現在、京都在住

主な展覧会

2019 個展「愛似聖代」URBAN GALLERY (高雄)
2020 個展「あの人は今何してる——劉亦玲家での展示」作家自宅 (台南)
2021 個展「借來的光」日晒設計印務所 (台南)
2022 「アートフェアアジア福岡 2022」ホテルオークラ福岡 (福岡)
2023 「精神の風景 絵画旅行」なかお画廊 (熊本)

ウェブサイト

<https://littleumi.weebly.com/>

辻元 美穂

Miho TSUJIMOTO

1994 大阪生まれ
2019 大阪教育大学大学院教育学研究科修了
現在、大阪在住

主な展覧会

2017 個展「今日、そこに生える」gallery sage (大阪)
「CASO 気鋭展」海岸通ギャラリー・CASO (大阪)
2018 個展「明るいほうへダイブする」MU 東心齋橋画廊 (大阪)
「ザムザ 2018 ～ 虫によせて」HRD ファインアート (京都)
2020 「ゲシュタルトの祈り」2kw gallery (大津)
2021 「小庭と空き地」アトリエ三月 (大阪)
2022 「OSAKA LAUGH&ART」大阪中央公会堂 (大阪)
2023 「Currently art」芝田町画廊 (大阪)

ウェブサイト

https://www.instagram.com/m_tjmt_works/

【感染対策について】

HRD ファインアートでは、2020 年以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止対応として様々な措置を導入・実施してまいりました。現在も感染が完全に収束したわけではないことから、展覧会に来場される皆様には以下の各点について引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

① 検温・不織布マスク着用

ご来場の方は、事前（当日）に検温をお願いいたします（会場で非接触式体温計による検温をお願いする場合があります）。37.5℃以上の熱のある方や咳等の呼吸器症状のある方はご来場をお断りします。また、ギャラリー内では原則として不織布マスクまたは同等以上の感染防止性能を持つマスクの着用をお願いします。健康上の理由等によりマスクを着用することができない場合はお申し出ください。

② 来場人数制限の実施

ギャラリー内の混雑を避けるため、来場人数の制限を設け、ギャラリーへの入場をお待ちいただく場合があります。

③ 臨時休業・完全アポイント制への移行の可能性

新型コロナウイルスの感染拡大を見極め、状況に応じてギャラリーを臨時に休業、または事前アポイントによる完全予約制とさせていただく可能性もあります。こうした場合は、ギャラリーのウェブサイト www.hrdfineart.com や SNS のチャンネルを通じて、なるべく早い段階で告知を行います。

お問い合わせ：HRD FINE ART
 (エイチアールディー・ファインアート)

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊壺町494-1

電話：090-9015-6087（担当：原田）

ウェブ：<http://www.hrdfineart.com>

Eメール info@hrdfineart.com

